



女子栄養大学短期大学部非常勤講師
資源と環境の教育を考える会『エコが見える学校』
関東学院大学非常勤講師
三信化工株式会社

海老原誠治

えびはら せいじ

佐賀大学物理学科卒業、佐賀県立有田窯業高等学校・
常勤講師を経る。

◎政府インターネットテレビ『徳光・木佐の知りたいニッポン〜守りつなぎ広める日本の心 和食』で和食器の給食、出前授業の様子が放送されています。

クリムトから徒然と、文化の共有を思う

前はモロー展から文化のつながりを考えましたが、今回は同時期開催のクリムト展から考えます。グスタフ・クリムトといえ、広がる金の平面に、けだるさや恍惚の表情を浮かべる人物が混在している印象です。代表作は『接吻』(せつぶん)でしょうか。今回の展覧会では、過去最多、日本初公開の大作『女の三世代』(画像①)など、充実した内容が伺えます。

クリムトとジャポニズム

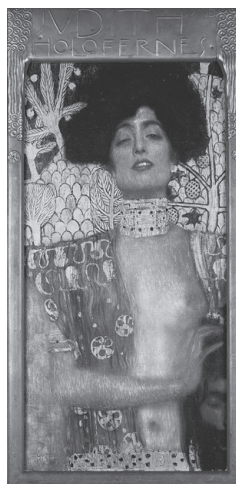
19世紀末よりヨーロッパに広がる日本文化のインパクト、ジャポニズムは、ウィー

ンにおいても、パリと違う傾向で影響を及ぼします。パリにおいては、大胆な構図、遠近法を無視した構成、木版画のような輪郭の強調など、主に浮世絵から絵画技法に対する影響が指摘されます。

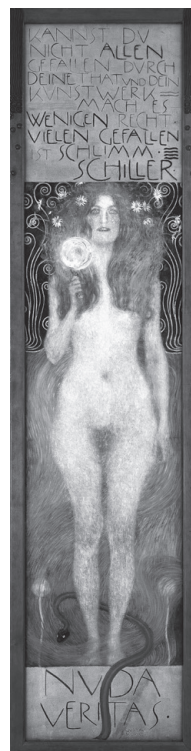
一方、ウィーンでは、屏風・襖・掛け軸などを彷彿とさせるサイズ・縦横比(画像①~④)、掛け軸の縁の表装のような装飾の構成(画像②③)など、工芸の装飾技法的な影響が指摘されています(2000、馬淵明子/2006、西川智之)。クリムトにおい



▲①《女の三世代》1905年、ローマ国立近代美術館、
Galleria Nazionale d'Arte Moderna e Contemporanea, Roma



▲②《ユディット I》1901年、ベル
ヴェデーレ宮オーストリア絵画館、
©Belvedere, Vienna,
Photo: Johannes Stoll



▶③《ヌーダ・ヴェリタス(裸の真実)》
1899年、オーストリア演劇博物館、
©KHM-Museumsverband,
Theatermuseum Vienna

▶④グスタフ・クリムト
《人生は戦いなり（黄金の騎士）》1903年、愛知県美術館所蔵



◀⑤尾形光琳《太公望図》江戸、京都国立博物館所蔵
左上の背景には金箔が広がり、左下には流水文が展開する。
出典：国立博物館所蔵品統合検索システム
(<https://colbase.nich.go.jp/collection/items/view/94cc071c58058a06910f6fac69566a0d/981>)

▶▼アール・デコ建築の東京都庭園美術館。アール・ヌーボーからアール・デコにかけての代表的ガラス工芸家；ルネ・ラリック（フランス）のガラスレリーフにより玄関の扉をしつらえている。（昭和4年着工・昭和8年完成・東京都港区白金台）



ては特に、流水文など文様の使い方や（2011、嶋田宏司）、金の使い方（画像②～④）に、琳派（本阿弥光悦・俵屋宗達に始まり、尾形光琳・乾山兄弟へ続く美術工芸の流れ）の影響が指摘されます。参考まで、琳派；尾形光琳により金箔を背景に配し、流水文を携えた屏風『太公望図』を紹介致します（画像⑤）。

このような日本の美術工芸とヨーロッパ絵画の融合は、東洋の無常観・儚さ・世紀末思想的な生と死を包括して、植物的な曲線によるデザイン；アール・ヌーボーにつながります。さらに工業デザインと交わり、幾何学的に構成されたアール・デコとして展開、逆に日本にも影響を及ぼします。イメージとしては大正浪漫でしょうか。東京都庭園美術館として残るアール・デコ建築などが有名です。日本に影響された文化が、欧米文化として帰って来ることは、面白く、すごいことです。

文化の共有

生々しい話ですが、今回のような画像利用は、特別展などでは手続きにより使用で

きますが、場合によっては画像の閲覧もできないことがあります。良い資料でも授業で活用できるとは限らないのです。

そのような中、今回紹介する画像④⑤は、いつでも誰でも、所蔵者の表示など少しのルールを守れば自由に使える資料です。「パブリックドメイン」といい、著作権の切れた文化遺産の画像データが公開されます。このような事例は、まだ一部ですが非常にありがたいことです。食育で使えるデータを少しずつ調査しているところです。

幕末、開国により開放された日本文化は、ジャポニズムというインパクトを生みしました。それとは比較できないかもしれませんが、このたびパブリックドメインによる文化遺産の開放は、個人で鑑賞・人に紹介、そして教材などへの応用と、広く深く接する道を開きます。このことが、どのようなインパクトを生むのか、期待を膨らませていきます。

クリムト展－ウィーンと日本1900－
※チケットプレゼント（詳細は101p）
2019年4月23日～7月10日；東京都美術館（東京）
2019年7月23日～10月14日；豊田市美術館（愛知）